

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら 松戸六高台教室 (児発)		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 10日		2025年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2025年 11月 10日		2025年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2026 年 1月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者や各関係機関(保育園・幼稚園等)との繋がりが出来ている点	管理者や児発管に関わらず、児童に直接かかわっている職員が様々な活動や児童への療育に積極的に参加を試みている。	関係機関連携を積極的に取り入れていく。
2	職員一人ひとりが、人任せにせず様々な活動をしている	HUGの活用や児童の活動の企画構成に至るまで、自発的な取り組みができるように、個々を尊重するようにしている。	非常勤職員にもその意識が広がっているが、まだ連携して周知することが完全とは言えない部分がある。全員にそれを求めるまでには至っていない。LINE WORKSなどを駆使してさらに工夫していく。
3	利用者や幼稚園・保育園・相談事業所などから紹介していただいている	保育園などへの送迎の際にも、児童の報告を欠かさないようにしている。園長先生にお会いする機会があるときには、一言必ずお話をさせて頂くことを心掛けている。	関係機関連携を積極的に取り入れていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常勤職員(特に勤務日数の少ない職員)を交えた合同会議が行えないこと	特例によらない多機能施設になるため、多くの職員が事業所に所属している。そのため、何回かに分けて会議を実施することがあり、情報共有が遅れることがある。	勤務日数や状況に関わらず、会議内容を共有できるよう、社内情報共有ツールの活用方法を見直していくなどの改善をしていく必要がある。
2	児童の年齢差が広がってくことで、年齢の高い児童と低い児童との興味の差が出てきていること	認知能力に不安がある児童よりも、情緒に不安がある児童の利用が多いので、その日のプログラムによっては学年が上の児童にとって興味が持てにくい内容になっていることもある。	参加を強制するのではなく、児童それぞれに合った活動を考えるなどの工夫が必要。飽きることなく前向きな気持ちで取り組めることを考え続けていきたい。
3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら 松戸六高台教室（放デイ）		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 10日		2025年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	2025年 11月 10日		2025年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	2026 年 1月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者や各関係機関（学校・発達センター）との繋がりが出来ている点	管理者や児発管に関わらず、児童に直接かかわっている職員との積極的な参加を試みている。	関係機関連携を積極的に取り入れていく。
2	職員一人ひとりが、人任せにせず様々な活動をしている	HUGの活用や児童の活動の企画構成に至るまで、自発的な取り組みができるように、個々を尊重するようにしている。	非常勤職員にもその意識が広がっているが、まだ連携して周知することが完全とは言えない部分がある。全員にそれを求めるまでには至っていない。LINE WORKSなどを駆使してさらに工夫していく。
3	利用者や相談事業所などから紹介していただいている	学校への送迎の際にも、児童の報告を欠かさないようにしている。	関係機関連携を積極的に取り入れていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常勤職員（特に勤務日数の少ない職員）を交えた合同会議が行えないこと	特例によらない多機能施設になるため、多くの職員が事業所に所属している。そのため、何回かに分けて会議を実施することがあり、情報共有が遅れることがある。	勤務日数や状況に関わらず、会議内容を共有できるよう、社内情報共有ツールの活用方法を見直していくなどの改善をしていく必要がある。
2	児童の年齢差が広がってくことで、年齢の高い児童と低い児童との興味の差が出てきていること	認知能力に不安がある児童よりも、情緒に不安がある児童の利用が多いので、その日のプログラムによっては学年が上の児童にとって興味が持ちににくい内容になっていることもある。	参加を強制するのではなく、児童それぞれに合った活動を考えるなどの工夫が必要。飽きることなく前向きな気持ちで取り組めることを考え続けていきたい。
3			